

# 若者の世代が使用する動詞に関する考察

—「～る」形の動詞に関して—

赤 嶺 幸 枝

キーワード：若者語，使用率，ことばの定着

## はじめに

若者がよく使う「～る」形の動詞について，中学生，高校生，大学生を対象に2003年9月アンケート調査を行った。本稿では，そのアンケート調査のデータを利用し，使用率，調査語使用者の意識，現在のネットヒット件数との比較など様々な視点から分析を試みた。調査語の特徴について気付いた点を報告する。

## 1. 調査方法

琉球大学の一年生60人にあげてもらった若者語の中から，一定の規則「～る」という動詞19語を選んだ。調査したのは，「サボ（仏語，サボタージュの一部）＋る」，「テンパ（麻雀用語，聴牌の一部）＋る」，「写メ（商標，写メールの一部）＋る」の3語と，また一番多くあがった「英単語の

表1 調査語一覧

① ビニる	コンビニへ行く	⑪ テンパる	テンションが高すぎて余裕がない
② フィバる	大騒ぎする	⑫ テクッてる	とても上手である
③ ネットる	インターネットをする	⑬ コビる	コピーをとる
④ フィニる	終わる	⑭ トラブる	トラブルを起こす，故障が起きる
⑤ タクる	タクシーで行く，タクシーに乗る	⑮ ハモる	ハーモニーを作る
⑥ スタバる	スターバックスに行く	⑯ パニクる	慌てふためく，うろたえる
⑦ ギャグる	おもしろいことをいう，冗談をいう	⑰ メモる	かきとめる
⑧ 写メる	携帯で写真を撮って送信する	⑱ ミスる	失敗する，まちがえる
⑨ アピる	自分を主張する	⑲ サボる	理由もなく授業を欠席する
⑩ スタンバる	準備する		

一部＋る」形の動詞 16 語である。アンケート調査では、これらの動詞についてどのくらいその言葉を使用するか、動詞の「意味」「よく使う場所・対象」「使用する理由」について質問した。使用者には、調査語がどんな語から成り立っているのかの意識を調べるため、動詞の一部が、英語であるかどうかという質問項目も設けた。対象は、沖縄県の潮平中学校一年生 32 人、開邦高校の一年生 39 人、琉球大学の一年生 27 人、計 98 人である。

## 2. アンケート調査の分析

### 2.1 使用率

19 語それぞれの動詞についてどのくらい使用するかと質問した。選択肢の①よく使うは 4 点、②たまに使うは 3 点、③聞いたことがあるけれど使わないは 2 点、④知らないは 1 点（無記入は 0 点）として計算し、各動詞について、中学生、高校生、大学生の平均値をだした。以下はその結果をグラフにしたものである。使用率点数の低い動詞から高い動詞へと並べ替え、番号をふった。

グラフの右側に位置する動詞は、全体的に使用率が高い。反対に、左側に位置する動詞は、使用率が低く、定着していることとは言い難い。

#### 2.1.1 各動詞についての中学生、高校生、大学生の使用率の違い

図 1 は、使用率の平均点数が左から右側の動詞へと、連続的に変化しているように見える。各調査語を以下のように特徴別にわけた。

**山型：**グラフの左に位置する使用率の低い動詞（①ビニる、②フィバる）は、中、高、大それぞれの点数はほぼ同じだが、高校生の点数が高い為、間隔の狭い山型をなしている。使用率が高いグラフの右側に位置する動詞と比べると、山型は、全体の点数が少しずつ高くなるにつれて、山の部

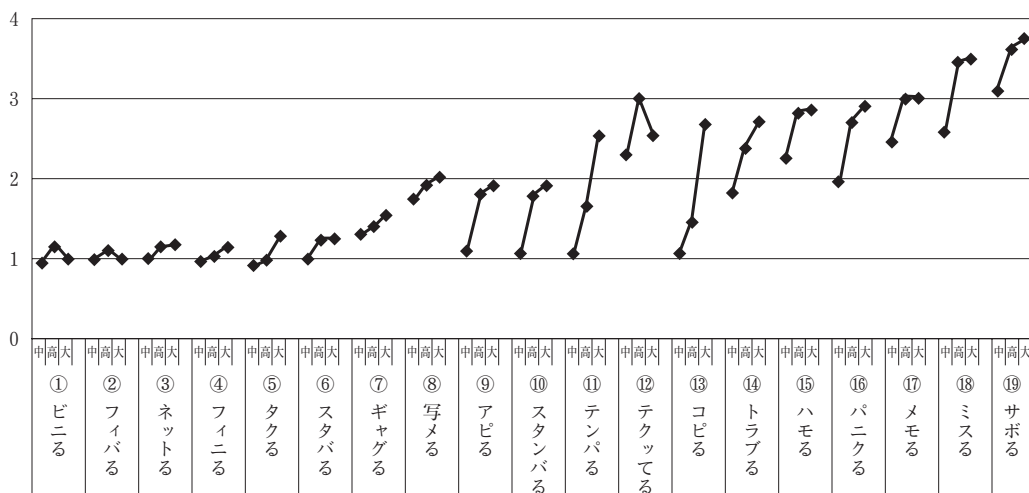


図 1 使用率平均点数

分が目立たなくなっていくように変形している。

**右上がり型：**山型の間隔を保ちながら、使用率をあげて右上がりのなだらかな線へと変化していく(③ネットる、④フィニる、⑤タクル、⑥スタバる、⑦ギャグる、⑧写メる)。中学生よりも、高校生、大学生の使用率が徐々にのびていくことを意味する。

**くの字型：**一定の間隔を保っていた右上がりのなだらかな線が、⑨アピる～⑲サボるにおいて、さらに使用率を上昇させながら、中・高校生の間に大きな間隔のある「く」の字型へと急激に変化している。⑪テンパる、⑬コピるについては、大学生の点数が、中、高を大きく引き離し、間隔が大きい。大学生が主に使用するキャンパス用語の性格が強い言葉だからであろうか。

**例外：**⑫テクッてるのみ全体的に使用率は高いが、高校生が、中学生、大学生の点数をひきはなして、間隔のひらいた山型になっている。

### 2.1.2 「～る」形の動詞の広がり方

図1より、使用率の低い時期＝山型→使用率が少しずつ増えていく中間段階＝右上がり型→ある程度認識される時期(使用率が比較的高い)＝くの字型という動詞の定着過程を予想できよう。また、使用率の高いグラフの右側に位置する動詞(くの字型)については普及のSカーブをイメージさせる。調査語の定着過程は、中学生の頃は「知らない」「聞いたことがある」程度の言葉という第一段階に始まり、高校生で「耳にすることが多くなり、周囲で使用する人が徐々に表れてくる」第二段階をへて、大学生では、「かなりの人々によって受け入れられ使用されるようになる」という第三段階が考えられる。特に高校、大学生の時期に定着していくようである。大学生より、高校生の使用率が高い例外の⑫テクッてるは、沖縄の新方言であろうか。しかし、『みんなで国語辞典！これも、日本語』(2006)では「テクる」が若者語として大阪の高校生より応募されているので(具体例として「お前、テクッてるやん。」があげられている)、沖縄以外の場所でも広く若者語として定着している可能性も考えられる。

## 2.2 英語の認識

調査した語形は「英単語の一部+る」が16語と一番多いが、使用する又は聞いたことがあると答えた人に対して、動詞の一部が、英語であるかどうかを質問した。回答は①英語であるは3点、②英語ではないは2点、③わからないは1点(無記入は0点)として計算し、平均値化した数値を以下のようにグラフにした(①ビニる～⑥スタバるについては使用率が全体的に10人以下と低く、極端な数値になっている)。図2の動詞の並びは、先の使用率の図1と同じにし、英語の認識と使用率との間に何らかの関係性を見つけようと試みた。

図2をみると高校生や大学生は、中学生に比べ、英語認識の点数が高い。英語の学習歴が影響しているであろう。高校生の点数が一番高くなる新たなフック型と、大学生の点数が一番高い右上がり型は同じくらい見られることから、高・大では英語の認識についてはあまり差がない。

次に、図1と図2の数値で散布図を作成した。英語の認識と使用率に注目することにした為、

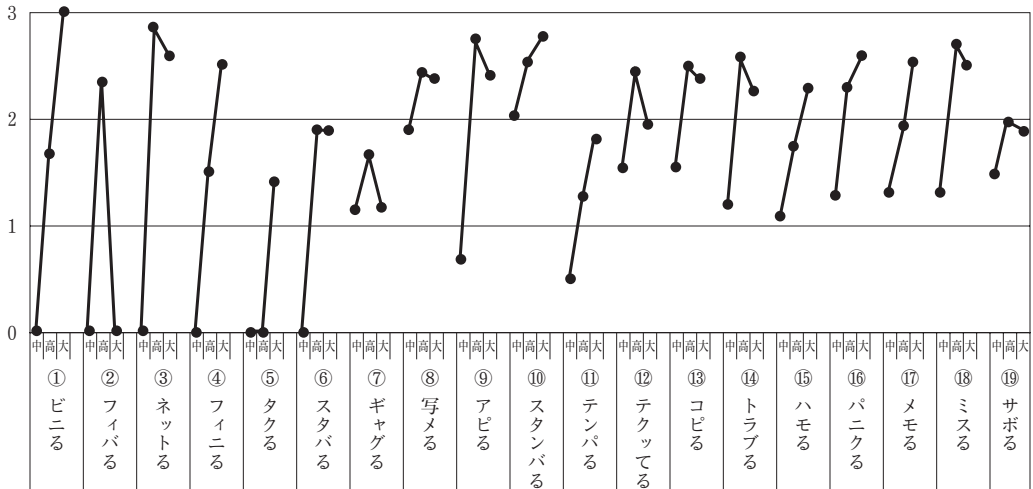


図2 英語認識と平均使用率点数

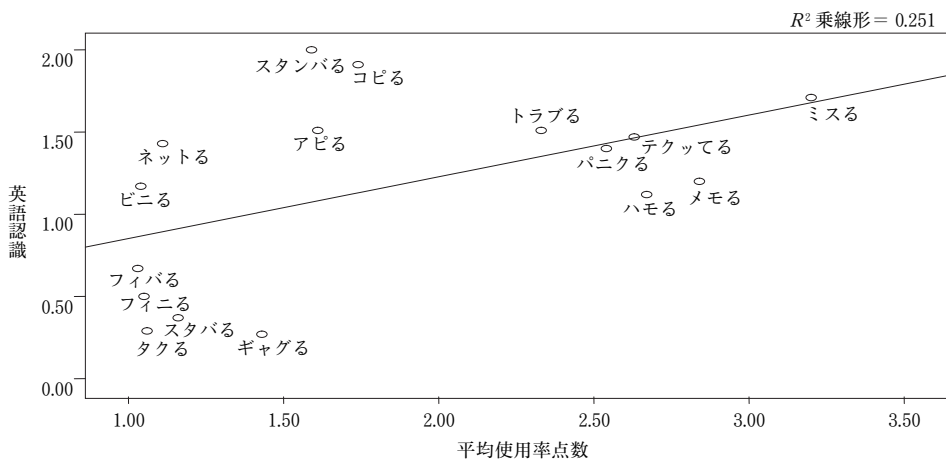


図3 英語認識と平均使用率点数

「英単語の一部+る」形ではない⑧写める，⑪テンバる，⑲サボる3語の数値は除いている。

図3をみると右上がりの近似直線を描いている。英語の認識が高いと、使用率も高くなる可能性が予測できる。高校・大学生は、使用率も高いことから中学生と比較しても、使用することばに対して意識が高いようである。

### 2.3 各調査語の理由と場所・使用対象

調査した19語について、動詞ごとに調査結果を報告する。

#### ⑲ サボる

使用理由：「便利だから」「皆が使うから」という回答が上位である。その他に、「いつのまにか」「日常語になっているから、なじんでいるから」「楽だし簡単に伝わるから」「他の表現方法がわか

らない」などがある。若い世代の日常にかなり浸透している言葉であるといえよう。

使用場所・使用対象：よく使われる場所は、「学校」「部活/サークル」が多く、よく使う対象は「友達」「兄弟/姉妹」「親」、使わないのは、「祖父母」「親」が上位にあがっている。

#### ⑱ ミスる

使用理由：大・高・中ともに「便利だから」「皆が使うから」が上位を占める。

使用場所・使用対象：よく使われている場所「学校」「家」「部活/サークル」が上位。よく使う対象は、多くが「友達」「兄弟/姉妹」「親」と回答。使わないのは、「祖父母」「親」「先生」「バイト先の上司」など年上の方が上位である。

#### ⑰ メモる

使用理由：「便利だから」が多数をしめている。

使用場所・使用対象：よく使う場所は「学校」「家」が上位。また、「テレビ」でよく耳にする答えも多かった。よく使うのは、「友達」「親」「兄弟/姉妹」、使わないのは、「祖父母」「親」が上位にあがった。

#### ⑯ パニクる

使用理由：中・高・大どの世代も「便利だから」と答えた。次いで「皆が使うから」、その他に、「普通の日本語になっているから」「他の言葉で表せない」「定着しているから」「いいやすいから」などがある。

使用場所・使用対象：よく使われる場所は「学校」「部活/サークル」が上位を占める。また「テレビ」でよく耳にするという答えも多かった。よく使うのは、「友達」「兄弟/姉妹」、使わないのは「祖父母」「先生」「親」の順で多い。

#### ⑮ ハモる

使用理由：中・高・大で「便利だから」が多数を占める。次に、「皆が使うから」「音の響きがいいから」が続く。「無意識」「なじんでいるから」「対応する日本語を知らないから」「意味が伝わりやすいから」などの回答もあった。

使用場所・使用対象：よく使う場所は「学校」「家」が上位で、「テレビ」でよく耳にするという答えも多数あった。よく使うのは、「友達」「兄弟/姉妹」「親」が上位に上がっている。使わないのは、「祖父母」「親」「先生」である。

#### ⑭ トラブる

使用理由：中・高・大の多くの方が「便利だから」と答えた。次いで「皆が使うから」が上位にあがっている。その他に、「なんとなく、いつのまにか」「外国語っぽいから」などがある。

使用場所・使用対象：よく使われる場所は、「学校」「家」が上位を占めており、「テレビ」でもよく耳にするという回答が多数あった。よく使うのは、多くが「友達」「親」「兄弟/姉妹」と回答した。使わないのは、「祖父母」「親」「先生」「バイト先の上司」などが上位にあがった。

#### ⑬ コピる

使用理由：「便利だから」が一番多い。

使用場所・使用対象：よく使う場所としては、「学校」が一番多かった。よく使うのは、「友達」、使わないのは「祖父母」「親」「先生」が上位であった。

#### ⑫ テクッてる

使用理由：中・高・大ともに、「便利だから」が一位である。

使用場所・使用対象：よく使われる場所として、「学校」「家」が上位を占めている。よく使うのは、中・高・大ともに「友達」「兄弟/姉妹」「親」という結果がでた。使わない対象として「祖父母」「親」「先生」があがった。

#### ⑪ テンパる

使用理由：「皆が使うから」「便利だから」があがっている。

使用場所・使用対象：よく使う場所は、「学校」、「テレビ」でよく耳にするという答えが上位を占める。よく使うのは、「友達」が一位となっている。使わないのは、「祖父母」「親」「先生」が上位である。

#### ⑩ スタンバる

使用理由：「便利だから」が一番多い。

使用場所・使用対象：よく使われる場所は、「学校」と回答した人が一番多く、また「テレビ」でもよく耳にすると答えた人が多い。よく使う人としては、「友達」が圧倒的に一位で、使わないのは、「祖父母」「親」「先生」である。

#### ⑨ アピる

使用理由：「便利だから」「皆が使うから」が多い。その他に、「音の響きがいいから」「みじかいからいい」「いつのまにか使っているから」などがある。

使用場所・使用対象：よく使う場所は「学校」、「テレビ」でよく耳にするが多い。よく使うのは「友達」、また使わないのは、「祖父母」「親」が上位である。

#### ⑧ 写メる

使用理由：ほとんどの人が「便利だから」と答えた。

使用場所・使用対象：よく使う場所として、「学校」が上位。また「テレビ」でもよく耳にするが多い。よく使うのは、「友達」「兄弟/姉妹」、使わないのは、「祖父母」「先生」「親」。

#### ⑦ ギャグる

使用理由：「便利だから」である。

使用場所・使用対象：よく使う場所は「学校」が多い。また「テレビ」でよく耳にするという回答も多数あった。よく使うのは、「友達」が一位、使わないのは、「祖父母」が一位。

#### ① ビニる/② フィバる/③ ネットる/④ フィニる/⑤ タクる/⑥ スタバる

この四つの言葉は、共通して使用度が5%以下で、使用理由、場所、対象の回答を得られなかった。

### 3. インターネット調査

調査語 19 語について、現在どのくらい使用されているのかインターネットのホームページを利用して、検索エンジン yahoo で 17 ドメインを指定し、ヒット件数を調べた（2007/7/25～2007/9/30 検索結果）。今回は、終止形「～る」に絞って検索した。各動詞の平均ヒット数を図 4 に示す。2003 年アンケート調査結果と比較しやすい為、図 1 で示した使用率点数の順に並べている。

平均ヒット件数の多さが現在の使用率を反映しているとする、一番件数の多い⑱サボるは、2003 年アンケート調査結果の使用率平均点数と同様に一番使用率が高い。他の 18 語と比較しても件数が圧倒的に高く、異なる性質を持っているように思われる。また平均ヒット数が一桁と少ない④フィニる、①ビニるもアンケート調査の使用率平均点数の結果とほぼ一致している。特にアンケート調査より使用率が上がったとみなせる動詞は、⑤タクる、⑦ギャグる、⑧写めるである。例外的に高校生の使用率を上回っていた⑫テクッてるは、平均ヒット数が 63 件と比較的少ない。

次に、17 ドメインごとの合計ヒット件数を図 5 にした。調査した動詞が出現するドメインに注目し、調査語にどのような特徴があるのかを明らかにしようと試みた。

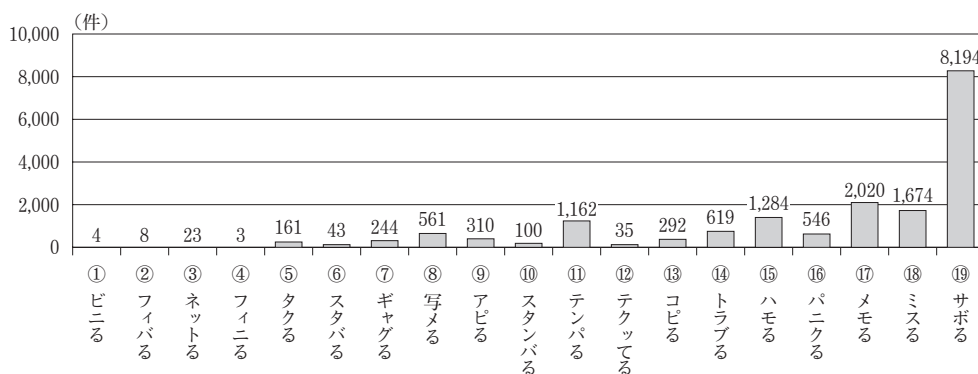


図 4 平均ヒット件数

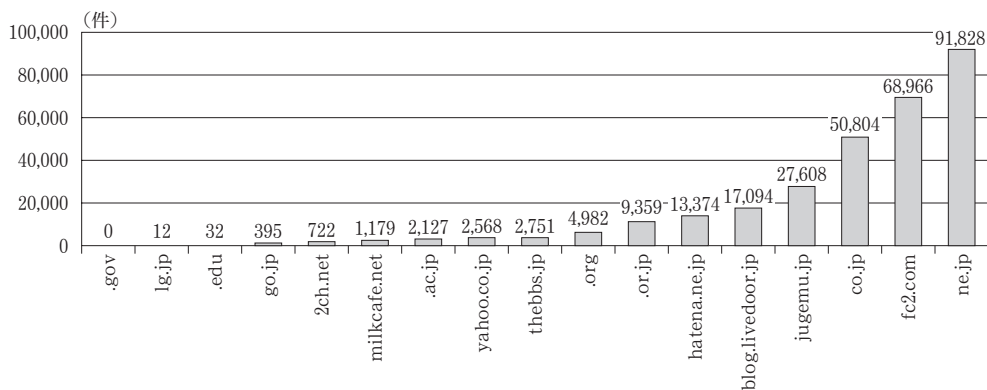
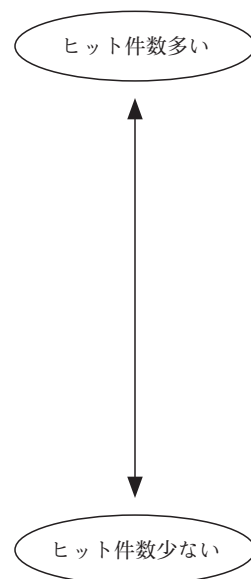


図 5 ドメイン合計ヒット件数

検索した 17 ドメインにはそれぞれ以下のような特徴がある。

表 2 検索したドメインの特徴

ne.jp	ネットワークサービス
fc2.com	ブログサイト
co.jp	日本企業・法人
jugemu.jp	ブログポータル
blog.livedoor.jp	ブログサイト
hatena.ne.jp	ブログ・検索サイト
.or.jp	法人
.org	非営利団体やグループのウェブサイト
thebbs.jp	掲示板サイト
yahoo.co.jp	ポータルサイトyahoo 関連
.ac.jp	教育機関（大学）
milkcafe.net	学生向け掲示板サイト（進学・就職情報）
2ch.net	2ちゃんねる掲示板サイト
go.jp	日本の政府機関・特殊法人
.edu	アメリカ合衆国の教育機関関係サイト
lg.jp	地方公共団体
.gov	アメリカ合衆国の連邦政府機関や関連組織関係サイト



教育機関や公的機関のドメインでは、ヒット数が少ないのが明らかであることから、調査した動詞は、書きことば的ではない、又は、フォーマルな場面においては使用されにくいと言える。一方、比較的インフォーマルな場面として考えられるブログ関係のドメインでは、予想通りヒット件数が多いが、掲示板よりブログ関係でのヒット件数が多いことは、予想外であった。掲示板は、話しことば的、またブログは書きことば的ではないかという予想に反して、ブログが話しことば的なのか、それとも書く、話すの性質両方をあわせもっているのだろうか。調査語自体が話しことば的でなく、書きことば的性質を持つように変化している可能性も考えられる。

そこで、調査動詞 19 語を辞書で調べてみた。年代が古い辞書に比べると、語数が増えている。

表 3 辞書に載っている調査語

『広辞苑 第一版』（1955）	1 語	サボる	⇒	『広辞苑 第六版』（2007）	7 語	サボる・ミスる・メモる ハモる・パニックる トラブる・テンバる
『岩波国語辞典 第四版』（1986）	1 語	サボる		『岩波国語辞典 第六版』（2000）	1 語	サボる
『日本国語大辞典 第一版』（1972）	4 語	サボる・ミスる・メモる ハモる		『日本国語大辞典 第二版』（2004）	6 語	サボる・ミスる・メモる ハモる・パニックる トラブる
『大辞林 第一版』（1988）	2 語	サボる・メモる		『大辞林 第三版』（2006）	7 語	サボる・ミスる・メモる ハモる・パニックる トラブる・テンバる
『新明解国語辞典 第五版』（2000）	1 語	サボる		『新明解国語辞典 第六版』（2005）	2 語	サボる メモる（小見出し）



使用率が増え定着し容認されると、書きことばへの影響や、語そのもののフォーマル度や書きことばの性質も徐々に高まる傾向は否定できない。

#### 4. 派生元語になった語の初出年

動詞 19 語について、辞典やインターネットを使用し各動詞の派生の元になった語（派生元語）サボタージュ（仏語）、聴牌（麻雀用語だがもともと中国語）や英語の初出年を調べ、以下のように初出年が古い順に並べた（図 7）。⑧写めるについては、写メールを派生元語とした。

さらに、派生元語の初出年と使用率の関係を以下の散布図に示す。全体的に右下がりの近似直線をイメージできる。初出年が古い語（散布図の中心より左寄りに位置する）ほど使用率が高く、初出年が新しい語（散布図中心より右寄りに位置する）ほど使用率が低い傾向があるといえるだろう。

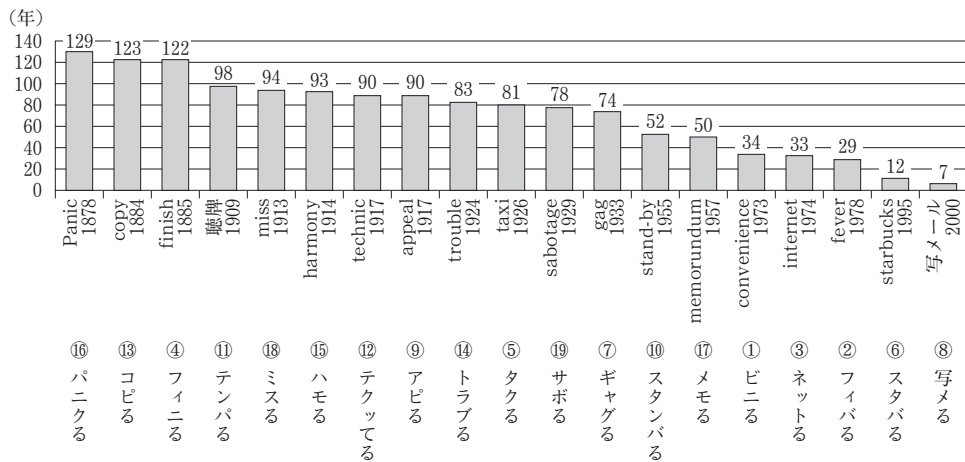


図 7 調査動詞の派生元語初出年～現在（2007）の期間

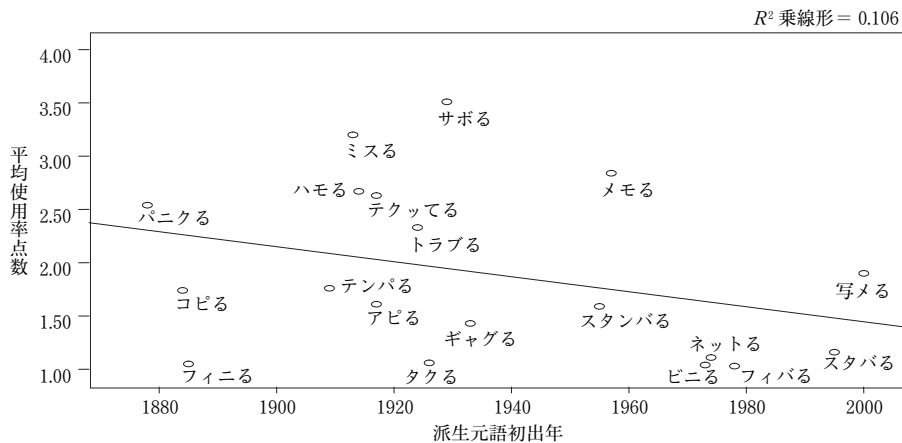


図 8 平均使用率点数と派生元語初出年

## むすび

若い世代が使用する「～る」形の動詞は、中学生、高校生、大学生という3段階を経て、特に高校生・大学生の時期に急速に定着するようである。これらの動詞が、英語を含む動詞であるかないかは、使用率にはあまり関係ないと思われたが、散布図によって相関関係がみられた。また、若い世代だけが話しことばとしてインフォーマルな場面で使用するだけでなく、使用者が増え、一般に定着し容認されるようになると、フォーマル度や書きことば的性質が少しずつ高まる可能性をみた。さらに、派生元語の初出年と使用率の関係については、初出年が早い、すなわち日本語に借用されて長い期間を経ると、「借用語の一部＋る」という動詞として採用されやすい傾向がみられた。特に借用語＝英単語「英単語の一部＋る」という形が多いことがわかる。

将来使用率がどのように変化していくのか、そして借用語を含まない動詞（例えば告白する→こくるなどの省略した形の動詞など）も含めて調査するとどのような結果が得られるのかは今後の調査において興味深い点である。書きことばやフォーマル度が、話しことばやその使用率によってどのような影響を受けるのかについても今後さらなる調査が必要である。

## 謝 辞

本研究のアンケート調査にご協力していただいた沖縄県の潮平中学校、開邦高校、琉球大学の皆様、また本稿のテーマについてご指導くださった鳥袋盛世先生へ深くお礼を申し上げます。そして、新たなデータの取り扱い方や分析の視点について井上史雄先生や明海大学院生の皆様より、ご指導、貴重なご助言を賜り、本稿をまとめることができました。心より感謝申し上げます。

## 参考文献

- あらかわそおべえ（1981）『角川 外来語辞典 第二版』角川書店  
 石綿敏雄（1990）『基本外来語辞典』東京堂出版  
 北原保雄（2006）『みんなで国語辞典！ これも、日本語』大修館  
 金田一京助（2000）『新明解国語辞典 第五版』三省堂  
 金田一京助（2005）『新明解国語辞典 第六版』三省堂  
 新村出（1955）『広辞苑 第一版』岩波書店  
 新村出（2007）『広辞苑 第六版』岩波書店  
 西尾実他（1986）『岩波国語辞典 第四版』岩波書店  
 西尾実他（2001）『岩波国語辞典 第六版』岩波書店  
 日本国語大辞典第二版編集委員会（1972）『日本国語大辞典 第一版』小学館  
 日本国語大辞典第二版編集委員会（2004）『日本国語大辞典 第二版』小学館  
 松村明（1988）『大辞林 第一版』三省堂  
 松村明（2006）『大辞林 第三版』三省堂  
 荻野綱男（2006）「WWWによる単語文体差の研究」『日本語学会 2006 年度秋季大会予稿集』Wikipedia  
 フリー百科事典 <http://ja.wikipedia.org/wiki/> 2007/09/30